また、現在の酪農を支え育てていくことはさることながら、将来を見据え、持続可能で自然環境にも配慮した循環型の放牧酪農の取り組みを進めていきます。

担い手対策については、農業にチャレンジしやすい環境づくりを進めるとともに、気候風土を生かした蔬菜生産や果樹栽培の実証試験を進めていきます。

林業については、森林環境の保全や林業専用道などの路網整備による未整備森林の適切な更新を図るとともに、担い手の育成や確保に向けた取り組みなど、林業・林産業の振興に努めていきます。

酪農で新規就農を目指している菊地さん夫婦。本年度は３件の新規就農が予定されています。

また、生産される木材の有効かつ付加価値の高い利活用の促進を図るため、バイオマス利用や木材の高次加工の取り組みについて推進していきます。

漁業については、持続可能な資源の増大に向け、白糠漁業協同組合が取り組んでいるホタテの増養殖事業に対する支援とともに、ヤマトシジミやナマコなど、新たな魚種の可能性を探るため、増養殖の実証試験等を進めていきます。

漁獲物の販売促進に向けた取り組みについては、本町海域で水揚げが増えているブリなどの魚種に対し、高付加価値化に取り組む事業者に対して支援するとともに、前浜で獲れた海産物の製品加工や販売を行うため、白糠漁業協同組合が進めている水産加工施設整備事業に対して支援を行い、漁家経営の安定に努めます。

また、令和４年度に設置した海況観測センサーに新たな機能を追加し、漁業の効率性や生産性を向上させることで、次代を担う若手漁業者が希望を持って漁業に取り組めるよう、漁業の振興に努めます。

商工業については、現下のさまざまな価格上昇と高止まりが続いていることや、事業後継者が不足している状況を踏まえ、引き続き白糠町商工会と連携を図りながら、小規模事業者、事業後継者に対する支援に努めます。

道の駅しらぬか恋問移転改築事業については、来年４月のオープンに向け、受託事業者と連携を図りながら、まちの新たな魅力発信拠点施設として整備を進めていきます。

また、花火大会等のイベントの開催や道央圏ならびに道外での物販等を通じて、交流人口や特産品販路の拡大など、まちの活性化に向けた取り組みを進めていきます。

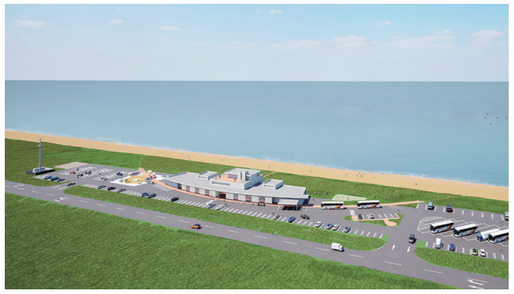
まちの魅力発信については、パンフレットやフリーペーパー、ＰＲ動画などを活用し、子育て支援や移住定住施策、環境に配慮したまちづくりへの取り組みを、積極的に発信していきます。

また、民間事業者のアイデアやノウハウ、ネットワーク等を積極的に活用し、情報発信の強化に努めます。

「ふるさと納税」については、寄付された皆さまとの継続した関係性を重視しながら、さらなる本町のＰＲに努めるとともに、地域食材の高付加価値化など、将来に向けて持続していくための取り組みを推進していきます。

企業活動への支援については、企業誘致の促進と町内企業の事業拡大に対して支援を行い、新たな雇用の創出と地域経済の発展に努めます。

本町泊別地区の道立広域公園については本年度、北海道と民間活力の導入や管理運営を含めた役割分担など、具体的な整備手法について協議を進め、早期の事業着手に向けて取り組んでいきます。


新たな「道の駅しらぬか恋問館」の完成イメージ図。2025年４月オープンに向けて、現在整備を進めています。

⑴道営草地整備事業の推進
⑵家畜防疫対策事業への支援
⑶担い手対策、新規就農者等支援事業の推進
⑷中山間地域等直接支払交付金制度による事業の推進
⑸多面的機能支払交付金制度による事業の推進
⑹環境保全型農業直接支払交付金制度による事業の推進
⑺有用植物の調査・研究に対する支援
⑻地域特性を生かした農業の推進
⑼農林業の連携による地域資源を活用した循環型森づくりの推進
⑽エゾシカ被害防止対策及び有効活用の推進
⑾ヒグマ被害防止対策の推進
⑿有害鳥獣捕獲の担い手育成に対する支援
⒀民有林振興対策の推進
⒁漁業資源の増養殖事業の推進
⒂漁業後継者の育成に対する支援
⒃漁業操業用機器の整備・更新に対する支援
⒄水産生産基盤整備事業の推進
⒅水産加工施設整備事業への支援
⒆新産業創造等促進事業の推進
⒇商工業における次世代育成事業の推進

「楽天ショップ・オブ・ザ・イヤー2023」ふるさと納税賞大賞初受賞。107万件から167億円の寄付をいただきました。

(21)道の駅しらぬか恋問の移転改築
(22)しらぬか魅力発信事業の推進
(23)産業振興研修事業への支援
(24)ふるさと納税の推進
(25)企業活動に対する支援
(26)道立広域公園整備の推進

6 みんなで歩む地域づくり

地域社会の持続的な発展を図るためには、町民の皆さまをはじめ、まちを構成するあらゆる関係機関等と情報を共有しながら、協働のまちづくりを推進していくことが必要です。

「第８次白糠町総合計画」を基本とし、民間経営理念・手法導入の視点に立ち、効果的・効率的な自治体経営の実現に努めていきます。

「太陽のてがみ」をはじめ、さまざまな広聴手段により町民ニーズを把握するとともに、広報紙やホームページなどを活用し、情報を積極的に発信することで、町民と行政が一体となった協働のまちづくりを推進していきます。

地方分権の推進については、釧路町村会の「地域づくり広域プロジェクト推進会議」など、広域連携に向けた取り組みを推進していきます。

また、北海道と管内市町村、さらには東京都荒川区を中心とした特別区（23区）などと連携した首都圏との交流拡大に向けたプロモーション活動などを推進していきます。

⑴「第８次白糠町総合計画」の進行管理

⑵「太陽のてがみ」による町民と行政の協働のまちづくりの推進

⑶広報紙、ホームページなどによる情報発信の充実・強化

⑷健全な行財政運営の基盤の構築

おわりに

白糠の先人は、幾多の苦難と変革を乗り越え、まちを発展させてきました。わが町は、先人が築いたその礎の上に成り立っていることを決して忘れてはなりません。

私は「将来に向け、今、何をしなければならないのか、また何をしておくべきなのか」ということを自問自答をしながら、町政の舵取りを担ってきました。

今、世の中が目まぐるしく変化し、これまでの経験や常識が通用しないというような難しい時代に、まちの将来に対する答えを見つけていくことは容易ではありません。しかし、過去を振り返ると多くの先人もこうした苦労の中、まちのために尽くされ、今の白糠があるのだと改めて強く感じています。

私は先人の努力に思いを馳せ、白糠町の将来を見据えて、今期においても「ふるさと白糠」をしっかりと子や孫へと引き継いでいくために、全力でまちづくりに取り組んでいきます。

議員各位ならびに町民皆さまのより一層のご理解とご協力を、心からお願い申し上げます。